

陳情文書表

【令和2年12月定例会議】

受理年月日	受理番号	提出者	付託委員会
令和2年11月12日	陳情第5号	小松島市坂野町字黒地6番地の11 上甲 雅敏	文教厚生 常任委員会

(件名・要旨)

生ごみ減量化のための陳情書

【陳情の要旨】

小松島市における市民一人当たりのごみ排出量は約1000gにもなり、その主要なものが生ごみである。その生ごみ減量化を目指す。そのためには、生ごみが排出されている実態の把握、減量化しようという意思の啓発、減量化の意欲を持った市民の育成、生ごみ減量化の取り組みへの援助が必要だと考える。自宅から出る生ごみを自分のところで処理したいと思う人、実際に試みている人も多数いる中、うまくいかなかったという人々も多いと思う。生ごみ減量化を拡大していくためには、生ごみ減量を試みる人々を激励し、手厚く補助し、かつ失敗を放置せず、いやむしろ失敗の報告を歓迎し、一緒になって失敗を克服し、成功に導くことが必要不可欠だと考える。その目的をもって色々な生ごみ処理器を分析し、「自分にもできるかもしれない」「やってみたい」「日々ごみの量が減っていくのが楽しみだ」と感じていくような具体的な施策が必要だと思う。

したがってその一助として以下のことを陳情する。

【陳情項目】

- 「ごみ処理器に関するお問い合わせ窓口」を設置する
ごみ処理器使用の知識を持つトラブル相談委員（コンポスター担当、電動ごみ処理機担当、キエーロ担当その他）を育成・配置し、連絡先を市民に明確にする
- コンポスター使用にあたっての注意事項、そして「発生する」と予測できるトラブル例、その対処法記載のパンフレットを配布する（パンフレットといっても、簡単でいつでも追記できるチラシ程度のもの）
そのために必要な実態把握、実験活動の実施、ノウハウの蓄積を行う
- 電気式生ごみ処理機のメリット、デメリットを研究し、広報する
- キエーロ設置推進班を設置する
 - キエーロ導入にあたっての調査事項、研究事項、実験項目を策定する
 - モニタリングしてもらう個人、団体を募集する
 - モニタリングの結果を広報する
- 市役所入り口に生ごみ減量化パネル展示と意見投書箱を設置する
- 学校給食について調査する
学校給食の調理残渣、食後の残飯は無視できない量に上ると思われる。その実態把握と対処策を検討していくことは、生ごみ減量化にとって必要不可欠である。
また就学前・学校教育の場での生ごみ教育は、家庭での生ごみ減量化につながっていく

という方向性・意識性をもって検討していく必要がある。

①調理残渣・残飯の処理実態を把握する

②他自治体の取り組みを調査する

例) 山梨県甲斐市バイオマスセンター、山梨県甲府市「学校から始める食品ロス削減の輪」、
札幌市「学校給食フードリサイクル」など

③対策を検討する

④幼児・児童・生徒自身による生ごみ処理の実践を検討していく

他の自治体と比較して、横並びになることを目指すのではなく、小松島市は生ごみゼロの自治体を目指していただきたい。生ごみゼロ化への必死の取り組みは、プラスチックごみなど他の廃棄物減量化に向かったの大きなインパクトになると信じる。